

不登校児童生徒の現状と課題について

1 現状 (令和 4(2022)年度問題行動不登校調査報告より)

(1)全体の傾向について (※別紙 表1・表2参照)

- ・令和 4(2022)年度不登校児童生徒数は 1 1 3 人であった。(国・県の傾向と同様に過去最高数)
- ・学年が上がるにつれ、増加傾向がみられる。
- ・令和 5(2023)年度不登校児童生徒数は、1 1 月末現在で 9 4 人である。(昨年度同時期と同等の傾向)

(2)要因について (※別紙 表3参照)

- ・小学校の主たる要因は、「無気力、不安」「親子の関わり方」「生活リズムの乱れ」が多く、中学校では「無気力、不安」次いで、「いじめを除く友人関係をめぐる悩み」「生活のリズムの乱れ」が多い。
- ・双方のコミュニケーション不足が背景となる事案もある。

2 課題

- ・自分の居場所、安らぎが家庭の中にも学校の中にもあること
- ・支持的風土の学級集団づくり、楽しい授業分かる授業づくり
- ・関係機関との連携
- ・コミュニケーション能力の育成

3 今後の取組

○ 市適応指導教室「ふれあいルーム」の利用

- ・不登校児童生徒を対象とした教室で、通級生同士の交流活動や創作活動、自主学習を行い、登校復帰を目指している。小学生 3 名、中学生 8 名 高校生 3 名利用している。(1 2 月末現在)

○ 「思春期サポートチーム」による支援 (※別紙 図1参照)

- ・市の子どもを支援する部署で構成した「思春期サポートチーム」が、必要に応じて学校訪問や家庭訪問、支援会議等を行っている。中学校卒業後も視野に入れ、切れ目のない支援体制に努めている。
- ・未然防止に向けた取組として、SOS の出し方教育(児童生徒向け)、SOS の受け止め教育(教職員向け)の出前講座を実施している。(11 月末現在、出し方教育は 13 校、受け止め教育は 6 校で実施)

○ 医療機関(新潟病院、関病院、厚生病院)との連携

- ・各医療機関において、主治医、ケースワーカー、担任、養護教諭、管理職等の学校職員、学校教育課指導主事を交えた支援会議を行い、本人や家庭への支援の方策を協議している。
- ・新潟病院で不登校に関する小児科外来が立ち上がった。主治医は 西牧 謙吾(子どもの心のケア研究室長・小児科医長)であり、学校等との積極的な連携を求めている。
- ・新潟病院西牧 Dr を中心に、月 1 回不登校に関する勉強会を実施している。子どもの発達支援課、臨床心理士、学校教育課指導主事、特別支援学校職員等が参加している。

○ 不登校児童生徒への個別指導「柏崎特別支援学校のアドバンス」の利用

- ・柏崎特別支援学校(地域支援部)では、不登校児童生徒への支援「アドバンス」を行っている。「アドバンス」では、自立活動(生活リズム改善、集団参加の仕方の習得等)と学習支援(数学、英語等の補助学習)が行われている。在籍の学校にも指導者が出向き、学習補助等の本人支援を行っている。
- ・柏崎特別支援学校に通う児童生徒は 9 人、在籍校に出向く出張アドバンスの利用者は 3 人である。